222	17	題号不明	下山田禮子	言語	胸底へやさしい着地しゃぼん玉	2009	『風の円柱（エンタシス）』	47	￥50	￥1	￥1	春
223	17	題号不明	下山田禮子	言語	雲雀野や少し傾いで家族なり	2009	『風の円柱（エンタシス）』	68	￥50	￥1	￥1	春
224	17	題号不明	下山田禮子	言語	鳥帰る櫓はゆっくりと我が生活［たつき］	2009	『風の円柱（エンタシス）』	44	￥50	￥1	￥1	春
225	17	題号不明	下山田禮子	言語	マグダラのマリアの裳裾鳥交る	2009	『風の円柱（エンタシス）』	95	￥50	￥1	￥1	春
226	17	題号不明	下山田禮子	言語	花の夜やまだ河岸の父の魂	2009	『風の円柱（エンタシス）』	6	￥50	￥1	￥1	春
227	17	題号不明	下山田禮子	言語	母の声浅き眠りへ水草生う	2009	『風の円柱（エンタシス）』	23	￥50	￥1	￥1	春
242	18	題号不明	加倉井秋を	言語	春夕べ夫婦踏切にて会へり	2017	『昭和俳句作品年表（戦後篇）』	62	￥50	￥1	￥1	春
243	18	題号不明	加倉井秋を	言語	ぬぎ捨てしごとくに花の闇出づる	2017	『昭和俳句作品年表（戦後篇）』	44	￥50	￥1	￥1	春
244	18	題号不明	加倉井秋を	言語	比叡より横川へ下る霞かな	2006	『角川俳句大歳時記　春』	106	￥50	￥1	￥1	春
245	18	題号不明	加倉井秋を	言語	何となく見てゐるところが陽炎へり	2017	『昭和俳句作品年表（戦後篇）』	83	￥50	￥1	￥1	春
246	18	題号不明	加倉井秋を	言語	ごみ箱に乗りメーデーの列を見る	2008	『俳句歳時記　第四版』	131	￥50	￥1	￥1	春
247	18	題号不明	加倉井秋を	言語	春日傘まはすてふこと妻になほ	2008	『俳句歳時記　第四版』	94	￥50	￥1	￥1	春
248	18	題号不明	加倉井秋を	言語	抽斗に夕顔の種こぼれゐる	2006	『角川俳句大歳時記　春』	224	￥50	￥1	￥1	春
249	18	題号不明	加倉井秋を	言語	看板の何も出て居ず種物屋	2008	『俳句歳時記　第四版』	104	￥50	￥1	￥1	春
250	18	題号不明	加倉井秋を	言語	海苔干場影といふものどこにもなし	2006	『角川俳句大歳時記　春』	243	￥50	￥1	￥1	春
251	18	題号不明	加倉井秋を	言語	たゞ荒磯海苔を掻く火も月も失せ	2001	『戦後秀句Ⅱ＜新版＞日本秀句10』	6	￥50	￥1	￥1	春
252	18	題号不明	加倉井秋を	言語	掌に揃ふ石の五色や磯遊び	2006	『角川俳句大歳時記　春』	258	￥50	￥1	￥1	春
253	18	題号不明	加倉井秋を	言語	春鮒釣り硝子戸のある家に帰る	2006	『角川俳句大歳時記　春』	260	￥50	￥1	￥1	春
254	18	題号不明	加倉井秋を	言語	さびしさに摘む芹なれば籠［こ］に満たず	2006	『角川俳句大歳時記　春』	264	￥50	￥1	￥1	春
255	18	題号不明	加倉井秋を	言語	凧糸の白さをもつて地に還る	2006	『角川俳句大歳時記　春』	279	￥50	￥1	￥1	春
256	18	題号不明	加倉井秋を	言語	栄螺の殻つまめるやうに出来てゐる	2008	『俳句歳時記　第四版』	170	￥50	￥1	￥1	春
257	18	題号不明	加倉井秋を	言語	どう置いても栄螺の殻は安定す	2006	『角川俳句大歳時記　春』	447	￥50	￥1	￥1	春
258	18	題号不明	加倉井秋を	言語	常節を採るには海が明る過ぎる	2006	『角川俳句大歳時記　春』	450	￥50	￥1	￥1	春
259	18	題号不明	加倉井秋を	言語	疲れゐて沈丁の香をすぐまとふ	2008	『俳句歳時記　第四版』	188	￥50	￥1	￥1	春
260	18	題号不明	加倉井秋を	言語	接骨木の花咲けり何かにまぎれんと	2006	『角川俳句大歳時記　春』	543	￥50	￥1	￥1	春
261	18	題号不明	加倉井秋を	言語	プラタナスの花咲き河岸に書肆ならぶ	2008	『俳句歳時記　第四版』	207	￥50	￥1	￥1	春
262	18	題号不明	加倉井秋を	言語	死者の杖伐るとわけ入り竹の秋	2006	『角川俳句大歳時記　春』	548	￥50	￥1	￥1	春
263	18	題号不明	加倉井秋を	言語	三葉芹摘みその白き根を揃ふ	2008	『俳句歳時記　第四版』	219	￥50	￥1	￥1	春